

ティーボール

1 概要

ティーボールは、野球やソフトボールに極めて類似したスポーツです。ティーボールが、野球やソフトボールと大きく異なるところは、本塁プレートの後方に置いたバッティングティーにボールを載せ、その止まったボールを打者が打つことです。このゲームは、1988年に、IBA（国際野球連盟）とISF（国際ソフトボール連盟）が協力して、野球やソフトボール入門期の子どもたちに考案されたものです。

2 用具

- ・専用バット
- ・バッティングティー
- ・ベース
- ・専用ボール

3 場所・コート

	塁間	外野フェンスまで
屋内	10~12m	30m 以上
屋外（一般） （中学生以上男子）	18.29m	55m 以上
屋外（上記以外）	14m	40m 以上

バッターズサークル・・・本塁プレートの角を中心として、半径3mの円を描く。

バッティングティー・・・本塁プレートの後方50cm以上1m以内の間に置く。



4 ゲームの進め方

- (1) 両チームの先攻、後攻を決める。競技者は両チーム同数。
- (2) 守備者は10名。他の選手はエキストラヒッター（打つだけの選手）となる。
- (3) 攻撃側の全打者が打撃を完了した時点で攻守を交替し、規程の回数（イニング）を終えたとき得点の多いチームが勝者となる。規程回数は、3回から5回。
- (4) 残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回はこの限りではない。
- (5) 試合終了時に同点の場合には、原則として試合を延長して行う。

5 ルール

- (1) 本塁手は打者が打撃を完了するまでは、バッターズサークルの外にいないなければならない。
- (2) 打撃について
 - ① 打撃時の軸足の移動は1歩までとする。2歩以上動かしたときは、ワンストライクが加えられる。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者は三振である。
 - ② 打者がボールを打たないで、ティーを打ったときは、空振りでワンストライクが加えられる。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者は三振である。
 - ③ ツーストライク後からのファウルは、打者アウトである。
 - ④ バントやプッシュバントは認められない。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者はアウトである。
 - ⑤ 打者は審判が「プレイ」と宣告した後、ボールを打つ。
- (3) 走塁について
 - ① 走者は打者が打った後、離塁する事ができる。走者の離塁が早いときは、走者は離塁アウトになる。
 - ② 盗塁は認められない。
 - ③ スライディングすると、走者アウト。走者の1塁、2塁、3塁での駆け抜けは認められる（走者は塁ベースを駆け抜けた後、進塁の意志がない場合には、野手にタッチされてもアウトにならない）。
 - ④ フェアボールとファウルボールは、野球やソフトボールと同じであるが、バッターズサークル内及びライン上で野手がボールに触れたり、ボールが止まったりしたときはファウルボールとする。